



静岡県川勝知事



浜松市鈴木市長

地方自治体が新時代を切り開く

アジア太平洋地域の地方自治体や地方自治関係団体などが一堂に会する「第3回都市・自治体連合アジア太平洋支部（UCLG ASPAC）コンGRESS2010」が、日本で初めて浜松市で開催されました（10月19日から22日まで）。「グローバル化への対応」をメインテーマに、川勝平太静岡県知事及び鈴木修スズキ株式会社社長による基調講演とともに「多文化共生」、「気候変動」、「地域資源を活用した観光振興」及び「経済分野における都市間連携」に関するパネルディスカッションを通じて、国際的な議論と意見交換が展開されました。

各国における地方分権など制度改革の推進により、地方自治体の担う分野が拡大していることに加えて、住民ニーズは多様化しており、高まる行政への期待に効率的に答えていかなければならないという課題認識がアジア太平洋地域内で共有されていることが明らかになりました。また、都市間連携及び地域社会の活動主体（民間企業、教育機関、NGO・NPOなど）とのパートナーシップの重要性が強調されました。

日本のUCLG新正会員、誕生！

UCLG加盟を申請している静岡市は、21日に開かれたUCLG ASPAC執行理事会で抱負を語り、本格的なデビューを果たしました。静岡市は、今までベトナムやシンガポールとの交流や協力を力を入れていましたが、UCLG ASPACそしてUCLGにおける活動を通じて、交流をさらに深め、連携を強化し、協働していくことへの決意を表明し、理事会メンバーの歓迎を受けました。

正式な加盟は、2011年1月からとなり、今後の活動に注目が集まっています。

浜松市が地元の魅力をアピール

今回のコンGRESSは、170人を超える海外参加者に日本と浜松市の魅力を体験していただく絶好の機会となりました。

浜松市は、「音楽の都」をアピールするため、各公式プログラムにおいて地元高等学校の吹奏楽部や四重奏団などによる素晴らしい演奏を用意しました。ディナーパーティーでは、迫力あるパフォーマンスを披露する地元の和太鼓団体が出席者をくぎ付けにしました。団員の中に2人の現役JET参加者がおり、団長の挨拶を通訳し、入団1年足らずながら、見事に演奏していました。



最終日に実施されたスタディツアーでは、2つのコースが用意され、参加者は日本のものづくりを代表するスズキの歴史館、清掃工場や地酒の蔵元と、歴史情緒あふれる浜松城、寺院や茶室を訪れるなど、浜松の魅力を満喫しました。

クレア・ブースでも、地方自治体の魅力をアピール



会期中に、クレアはブース出展を行い、コンgresのテーマと関連のある経済交流や多文化共生について、地方自治体等の特徴的な取り組みを紹介するパネルの展示やDVDの放映、災害時多言語情報作成ツールの実演などを行いました。展示パネルの内容説明や、災害時多言語情報作成ツールの操作体験などを通じて、来訪者にクレアのさまざまな取り組みを紹介しました。来訪者からは、日本の

地方自治体の国際化への取り組み全般についての質問や、日本の地方自治体と姉妹都市の関係を築きたいという要望（特にスリランカ、バングラデシュの方から）などが寄せられました。

また、各地方自治体から提供を受けた観光パンフレットを配布し、日本の地方自治体のPRを行いました。外国人来訪者からの関心は非常に大きく、中でもお祭りなどの伝統文化や豊かな自然の風景など、日本特有の観光資源を持つ地域に人気がありました。

この度のブース出展は、地域の国際化に向けて行っているさまざまな取り組みを国内外に紹介する貴重な機会となりました。

「浜松宣言」について

会議最終日の21日に、参加したUCLG ASPAC会員は、多文化共生社会の形成や環境に配慮した都市開発を促進し、気候変動などの影響を軽減するため都市間連携及び国連関係機関との協働を強化し、各地の文化や特徴を生かした観光振興のため協力し、都市外交を促進するという、「浜松宣言」を採択しました。

全文は、下記の公式ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

<http://www.uclg-aspac2010.org/jpn/declaration.html>

結びに

日本で初めて開催されたこのUCLG ASPAC会議には、140人を超える国内の地方自治体関係者が参加しました。会議での議論やアジア太平洋地域諸国の地方自治体関係者との交流などを通じて、課題の共通性と国境を越えた都市間連携の重要性及び可能性を感じていただけたに違いありません。

各地方自治体にとって、今後の国際化推進の一助となることを確信しています。